

平成28年度 宜野座村学力向上推進委員会 宜野座村教育委員会

ICTを活用した学習指導に関する指定研究校

宜野座村学力向上推進実践発表会

研究紀要

研究主題

「活用する力」の育成をめざした授業改善の工夫
～言語活動の充実を図る指導とICT機器の活用を通して～



宜野座村立宜野座小学校

〒904-1302 沖縄県国頭郡宜野座村字宜野座 1190 TEL 098-968-8550 FAX 098-968-2542

目次

1	研究の構想	1
2	【視点1】活用する力の育成	2
3	【視点2】言語活動の充実	4
4	【視点1・視点2を高めるツールとしてICT活用】	6
5	成果と課題	10
6	研究同人	11



本校、中庭に開花した桜

1 研究の構想

【本村 研究主題】

児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成のための
ICT 活用による学習指導

【本校 研究主題】

「活用する力」の育成をめざした授業改善の工夫
～言語活動の充実を図る指導と ICT 機器の活用を通して～

【テーマに迫る研究の視点】

【視点 1】

活用する力の育成

- すべての教科において活用する力の育成。
- 思考力・判断力・表現力を身につける授業。

【視点 2】

言語活動の充実

- 表現する場の設定（ペア・グループ・全体）。
- 言語環境の整備。

【視点 1・2】を高めるツール

効果的な ICT 活用

- 各教科を通して、効果的な ICT 活用（ICT 活用の目的を明確にする）。

2 【視点1】活用する力の育成

すべての教科において思考力・判断力・表現力を身につける授業

- 本校では、「活用する力」を思考力・判断力・表現力と捉えて研究を進めてきた。
- 毎時間の授業では、どの力を育成していくかを明確にして、授業を行っている。

【音楽科学習指導案】（抜粋）

【視点1・2を支えるツール】【思考判断】
授業の中でICT活用の目的を明確にする

(1) 本時のねらい

「ど・れ・み・ふぁ・そ」の鍵盤の位置と指づかひを覚え、簡単なフレーズを演奏する。

(2) ICT活用の目的

指番号と鍵盤の位置を視覚的に見せることで、児童がどの指でどの鍵盤をおさえればよいか分かり、旋律作りをすることができる。

(3) 本時の展開

	主な学習活動と予想される反応	指導上の配慮事項	評価の観点
導入	1 常時活動を行う ①「校歌」「世界が一つになるまで」を歌う。 ②鍵盤ハーモニカでまねっこ 2 学習のめあてをつかむ。 ○どれみふぁそのぼしよをおぼえよう。 ○せんりつづくりにちょうせんしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の心と体をほぐし、音楽への授業のかまえをつくる。 	(関) のびのびと歌い、演奏に参加している。
展開	3 「どんぐりぐりぐり」を階名唱や指番号で歌い、鍵盤ハーモニカで演奏する。 4 旋律づくりをする。【思考力】 5 つくった旋律を演奏発表する。【表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンカのリズム、四分休符を意識させる。 ・指番号と鍵盤の位置を確認し 	※書画カメラで鍵盤と指の対応を投影する。 【視点1】・【思考力・判断力・表現力】 思考を促す発問：明るい音や暗い音ってどんな音だろう？ 曲が続くイメージの音と終わるイメージの音はないかな？
まとめ	6 学習のふりかえりをする。【表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表する。 	【視点1】・【思考力・判断力・表現力】 授業の中で「活用する力」を明確にする

【ICT活用】の場面

- 授業の中で思考力を育成するためには、教師の発問が大事となる。思考を促す発問をすることで、児童自身が音のよさに気づき、旋律づくりをすることができる。



折れ線グラフから必要な情報を読みとり、自分の言葉でまとめて伝える。
【4年算数：判断→思考→表現へ】



自分で考えた自己紹介文を伝える活動をペア・グループの枠を超えてみんなで伝え合う。
【6年外国語：思考→表現へ】



自分の泳力は、どのくらいのレベルなのかを考えさせ、自分にあったコースを見つけ、めあてをたてる。
【3年体育：思考→判断へ】



教師が道徳的価値に迫る発問することで児童自ら自分の感じた思いをワークシートに書き込む。
【1年道徳：思考】

「活用する力」の育成を図るための視点

- 授業の中で、児童に「どんな力を身につけさせたいか」指導事項を明確にする。
 - 学習課題を設定し、どのような学習が必要か考え、学習計画を立てる。
 - 単元のゴールを見据えた単元全体の見通しを持たせる。
 - 子どもの視点で、めあてを立て本時のゴールの姿を明確にする。
 - ものの見方や考え方を深めるような授業の展開や発問の工夫をする。
 - めあてと振り返りに整合性をもたせ、次時へと繋げる。
- 以上の視点で授業を構想し、日々の授業改善へと繋げることで活用する力を育成する。

3 【視点2】言語活動の充実

表現する場の設定（ペア・グループ・全体）

- 授業の中では、児童が表現する場の設定をおこない、自分の言葉で考えや思いを伝える。
- 表現する場の工夫（ペア・グループ）。



【国語】表現する場の工夫「教室いっぱいを活用して表現する場を設定」

発表に必要な資料を譜面台に載せることで、さし示しながら発表できる。また、グループごとに発表の場所を指定し、聞き手側の向きを変えることで、他のグループが視界に入らず集中して発表が聞ける。



【算数】表現する場の設定（ペア交流）

隣同士がペアとなり、自分の考えを伝え合う。単に伝え合うだけではなく、相手に質問をしたり相手の良い部分を自分のものにつけ足したりしながら交流を深めていく。うまく交流ができない場合は、ペア交流の仕方の手引きを参考にする。

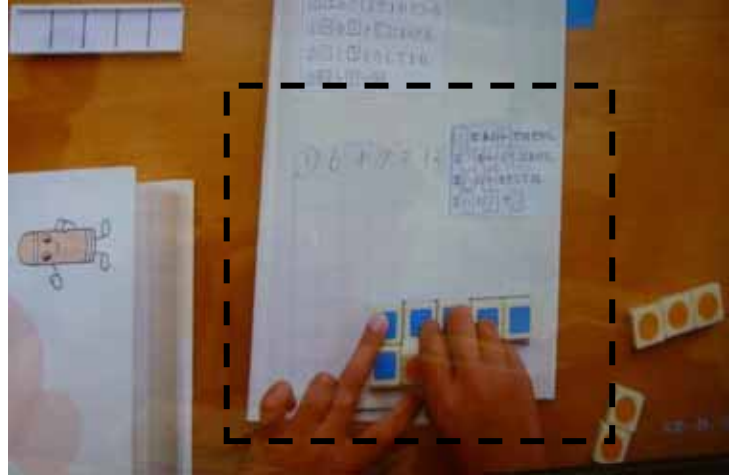


【国語】表現する場の設定（グループ交流）

自分の考えを付箋紙に書いて伝える。付箋紙を貼る時は、きちんと説明を入れて貼ることをルールにして、グループ内でお互いの考えが伝わるように工夫している。

言語環境の整備

- 思考の流れが見える板書やノートの工夫。
- 児童の思考をいつでも可視化できるように、教室掲示の工夫。

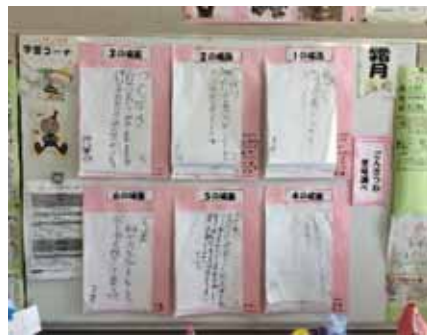


【ノートの工夫（ノートは学習したことを振り返るための道具）】

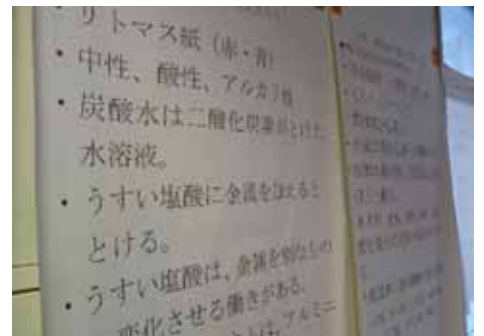
- 教科書の叙述をもとに付箋紙に自分の考えを書いたり、交流後に考えを深めたことを付け加えたりする場合に付箋紙は便利である。また、教科書からノートへの移動もできるので便利である。
- 補助シートを作成し、ブロック操作の流れを文にまとめられるように工夫している。



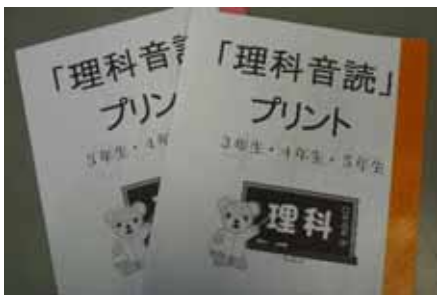
【ブックハウス】



【場面ごとの意味調べ】



【単元ごとのキーワード】



【理科の音読集】



【MIM（ミム）】



【ペア交流の仕方】

4 【視点1・視点2を高めるツールとしてのICT活用】

視点1：活用する力の育成～ICT活用～



- ・教科【理科】
- ・単元名「豆電球に明かりをつけよう」
- ・ICT活用の目的
導入の場面において、実験の様子を動画で見せることで、豆電球の明かりが点灯した場合と点灯しない場合を見つけ出させる。

【判断→思考を高めるためのICT活用】

実験の動画を見せることで、児童はつなぎ方に着目し点灯するつなぎ方、点灯しないつなぎ方がわかる。そのわかったことを考察につなげて書くことができる。



- ・教科【算数】 単元名「たしざん(2)」
- ・ICT活用の目的
発表場面において、数人の児童の考えを書画カメラで投影することで、思考を可視化し、そこから共通点と相違点を見つけ出すことができる

【思考→判断→表現を高めるためのICT活用】

児童の考えを可視化することで、共通点や相違点に気づき、それらを板書することで本時のねらいに迫ることができる。

児童の考えを可視化し共有を図る

キーワードとなる数字や言葉を板書



視点2：言語活動の充実～ICT活用～

言語活動を意識した授業展開の工夫や環境づくりをすることで児童の表現力が養われる。

児童が自信を持って楽しく元気よく、発表するためには、ICT機器を効果的に活用することが求められる。

書画カメラの活用にあたっては、ただ前に出て発表するのではなく、伝えたいことを「さし示しながら発表する」ことで、聞いている側にわかりやすく伝えることができる。

聞いている側もただ聞くのではなく、自分の考えと比較しながら、良い点があれば付け加えたり、自分の考えと違う点があれば、質問をしたりして相手の考えを聞くこともできる。

さらに、児童の言語活動の充実を図るために、授業だけではなく、朝の集会で行われる各委員会紹介で、原稿を見ずにプレゼンに挑戦している。



【児童会によるプレゼン】

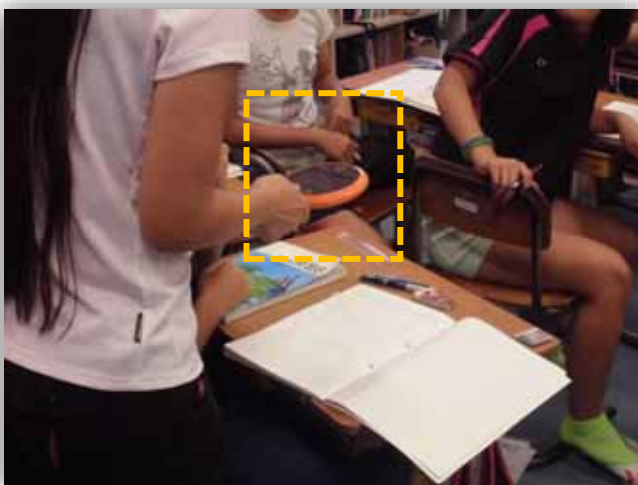
学校における教育活動全体で言語活動の充実を図る

4 【視点1・視点2を高めるツールとしてのICT活用】

タブレット端末を活用した授業実践～協働学習の設定～



タブレット端末を活用し、児童同士がお互いの考えを共有し、意見交換を行うことで互いが教え合い学び合いの協働学習ができる。



「ぼうけんくん」

ICT機器「ぼうけんくん」

ぼうけんくんとテレビが無線でつながっており、リアルタイムで見せたいものをテレビに投影することができ、動画も可能。保存もできる（持って移動できるのが特徴）。

タブレット端末を活用した授業実践～個別学習の設定～



デジタルソフトを活用したドリル学習



総合学習での調べ学習



アフタースクールで漢字ソフトを使った学習



社会科の調べ学習

タブレット端末を活用した実践～その他の活用～



学習発表会では、各学年の演技を各教室と多目的室へライブ配信致しました。

その際、使用したICT機器はタブレット。教室で出番を待つ児童にとっては、退屈することなくライブ配信に夢中になり、教師にとっても発表会の進行状況が把握でき、スムーズな運営をすることができた。



5 成果と課題

【成果】

- 教師一人ひとりが授業改善をすることで、児童の活用する力（思考力・判断力・表現力）が概ね身についてき、H27年度とH28年度全国学力・学習状況調査の結果を比較すると、学力の向上が見られた。
- すべての教科においてICT機器を活用することで、児童が興味・関心を持って意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- 残したいものやキーワードになる言葉・数字は板書、消してもいいものはデジタルと使い分けて授業をすることができた（デジタルとアナログを関連付けた授業展開）。
- タブレット端末を活用することで、児童同士の教え合いが増え、主低的に学習・活動する姿が見られるようになった（協働学習）。
- IT指導員が学校に常駐していることで、授業中ハード面のトラブルが起きた際は、すぐに対応し、授業に支障をきたすことが少なくなった。

【課題と今後の展望】

- 学校の教育活動全体を通して、児童の「活用する力」を高めていく環境づくりが必要である。
- 教室でタブレット端末を同時に40台使用すると、ネットワークに繋がりにくい状況が度々発生した。利便性の向上を図る必要がある。
- 今後は学校独自のタブレット端末を活用した、実践事例集を作成していくことが必要。
- 今後も教師のICT指導力向上を目指した研修等の実施とICT活用指導力の指導項目のチェックを年度初めと終わりに実施していきたい。
- 今後はICTを活用した新たな学び（アクティブラーニング）の学習プロセスの開発が必要。



宜野座小学校のホームページより、研究紀要が閲覧できます。
スマートフォンや携帯電話からQRコードを読み取って下さい。

6 研究同人

校長	仲里 信男
教頭	小谷 昭博
教務	仲宗根 卓
指導法工夫改善	比嘉 早苗
1年1組	仲西 希代子
1年2組	田本 優子
2年	佐久川 和幸
3年1組	國場 裕之
3年2組	大小堀 わかな
4年1組	徳山 章子
4年2組	石川 さやか
5年	大城 剛
6年	津波古 美加
コスモス学級	當銘 佳乃子
養護教諭	田仲 知子
栄養教諭	宮城 葵
学校事務	徳田 和佳乃
図書館司書	大西 志保
特別支援サポーター	謝花 博美
	青山 祥子
	佐久川 真澄
学習支援員	仲間 久恵
	小川 こずえ
	湧川 菜央
	新里 日向子
I T 指導員	武田 剛志
A L T	アレクサンドリア・ズリズン
学校用務員	渡具知 亜希

【校内研究でご協力いただいた方】

沖縄県立総合教育センター I T 教育班
宜野座村教育委員会 教育課

山里 崇 主事 新垣 勇人 主事
具志堅 仁一 主事 豊里 寿 主事

